古文単語 活用形から見出し語へ ④

高校／下二段・ラ変・カリ活用・ウ音便もまぜて、もどす

名前 _____

日付 _____

——線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
活用表には、下二段活用・ラ行変格活用が入っています。カリ活用や、ウ音便になった形も出てきます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段
動詞下二段活用	エ段	エ段	ウ段	ウ段＋る	ウ段＋れ	エ段＋よ
動詞ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

「から・かり・かる・かれ」「しから・しかり・しかる・しかれ」は、カリ活用（補助活用）の形。
形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

2 「親・君と申すとも、かくつきなきことをおほせたまふこと。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

3 露霜にしほたれて、所さだめず……（徒然草・第三段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 かぐや姫のいはく、「なでふさることかしはべらん。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

5 われも人も、宿世のつたなかりければ、ありありてかく遥なる国になりにたり。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

6 唐めきたる名の聞きにくく、花も見なれぬなど、いとなつかしからず。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 家にあり人に交はるとも、後世を願はむにかたかるべきかは。（徒然草・第五十八段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 いとどこの世のものならず清らにおよすげたまへれば、いとゆゆしう思したり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます